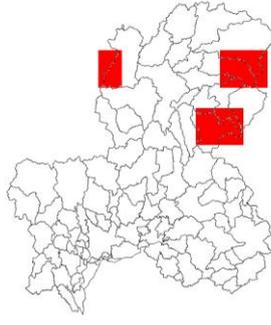


コマイワヤナギ		<i>Salix rupifraga</i> Koidz.	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		ヤナギ科	
選定理由	個体群が極めて小さく生育地面積が極めて限定される。	写真(岐阜県博物館) 標本 	
形態の特徴	葉は互生し、長さ3~10cm、幅2~3cmの長楕円形。先は尖り、ふちに細鋸歯がまばらにある。花は5月に葉の展開と同時に開花する。雄花序は長さ2.5~4.5cmの円柱形。雄蕊は2個で花糸は離生。雌花序は長さ1.7~2.5cm。苞は淡黄緑色で両面に長い軟毛が密生する。		
生態的特徴	小低木で山地の岩場に生える。		
分布状況	日本固有で、本州の関東地方西部から中部地方に分布する。		
減少要因	開発等による生育に適した岩場の減少。		
保全対策	生育に適した岩場環境の保全。		
特記事項			
参考文献	木村有香(1999)ヤナギ科. 日本の野生植物木本1. 平凡社		

文責:千藤克彦